

「多剤耐性結核に対するリネゾリド投与中の副作用に関する後方視的検討」に関する患者さま、ご家族の皆様へ

当院では「多剤耐性結核に対するリネゾリド投与中の副作用に関する後方視的検討」との研究を行っています。多剤耐性結核はもっとも重要な抗結核薬であるイソニアジドとリファンピシンの両剤に耐性である結核できわめて難治性でしたが、近年いくつかの有効薬の発見により治療成績は向上しています。リネゾリドもその1つの薬剤ですが、結核菌に対し優れた殺菌活性を有する一方で、骨髄抑制や神経障害などの副作用が時に問題となります。この調査は、当院で多剤耐性結核の治療が行われた患者さまにおいてリネゾリドによる副作用と薬剤の効果について調べ、今後の多剤耐性結核治療において有用となる情報を得ることを目的としております。

〔調査の対象となる患者さま〕

2014年9月1日から2025年3月31日までに、当院で多剤耐性結核に対して薬剤による治療が行われた患者さまが対象となります。

〔調査方法〕

患者さまのカルテ等の記録をもとに調査いたします。本調査では、患者さまに新たなご負担をおかけすることはありません。

〔患者さまのプライバシーに関して〕

プライバシー・個人情報は厳重に守られます。お名前、生年月日など患者さまを特定できる情報が外に出ることは決してありません。

ご不明な点がございましたら、以下に示す本調査の研究代表者までお問い合わせください。また、この研究にカルテ情報を利用することをご了解頂けない場合も以下までご連絡ください。ただし研究結果が学会や学術雑誌で発表された後のご連絡には対応できませんのでご了解ください。

〒591-8555 大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構近畿中央呼吸器センター

臨床研究センター 感染症研究部

露口一成

TEL: 072-252-3021, FAX: 072-251-1372

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ臨床試験審査委員会（IRB）における厳重な審査・承認をうけて実施しています。